

鉄筋工事施工計画書

(仮)

工事

<https://www.sekouya.com>

社

]

監理技術者

目 次

1. 一般事項
 - 1) 総 則
 - a. 適用範囲
 - b. 適用図書
 - c. 参考図書
 - d. 疑義、変更
 - e. 見本品・その他
 - f. 専門業者への指示
 - 2) 施工管理体制
 - 3) 工事概要

2. 要求品質・設計仕様
 - 1) 鉄筋材料（ 印は該当）
 - 2) 鉄筋のかぶり厚さ

3. 施 工
 - 1) 使用材料
 - 2) 材料保管場所及び保管方法
 - 3) 鉄筋工事施工フロー
 - 4) 施工要領
 - 5) 組立て
 - 6) 検査
 - 5) 記録写真

4. 安全衛生管理
 - 1) 墜落事故の防止
 - 2) 電動工具での事故防止
 - 3) 安全活動及び教育
 - 4) 工程別安全チェックポイント

5. 添付資料一覧
 - 1) 鉄筋ミルシート（製品検査済）
 - 2) 梁貫通補強筋（既製品）
 - 3) 鉄筋加工場概要書
 - 4) スペーサー関係資料
 - 5) 資格者証等写し

<https://www.sekouya.com>

書

1. 一般事項

1) 総則

a. 適用範囲

本施工計画書は、「

の鉄筋工事に適用する。

b. 適用図書

本工事は下記の設計図および

とする。

- 1) 本工事の建築設計図書及び
- 2) 現場説明書、質疑回答書及
- 3) 公共建築工事標準仕様書（

国土省大臣官房官庁営繕部監修

c. 参考図書

- 1) 建築工事監理指針（平成2
- 2) 建築工事施工チェックシー

国土省大臣官房官庁営繕部監修

日本建築協会

d. 疑義、変更

上記設計図書類に明記のな
と十分協議のうえ施工する
この計画書の内容に変更
生じた場合は、工事監理
変更・修正内容について

生じた場合は、工事監理者(主任監督員)

に記載外の事項で重要と思われる問題が

に発生した場合は、関係者全員に周知させる。

e. 見本品・その他

本工事に使用する各材料は、
員の承諾を受ける。

写真、写真ログ、その他の資料等を提出し監督職

f. 専門業者への指示

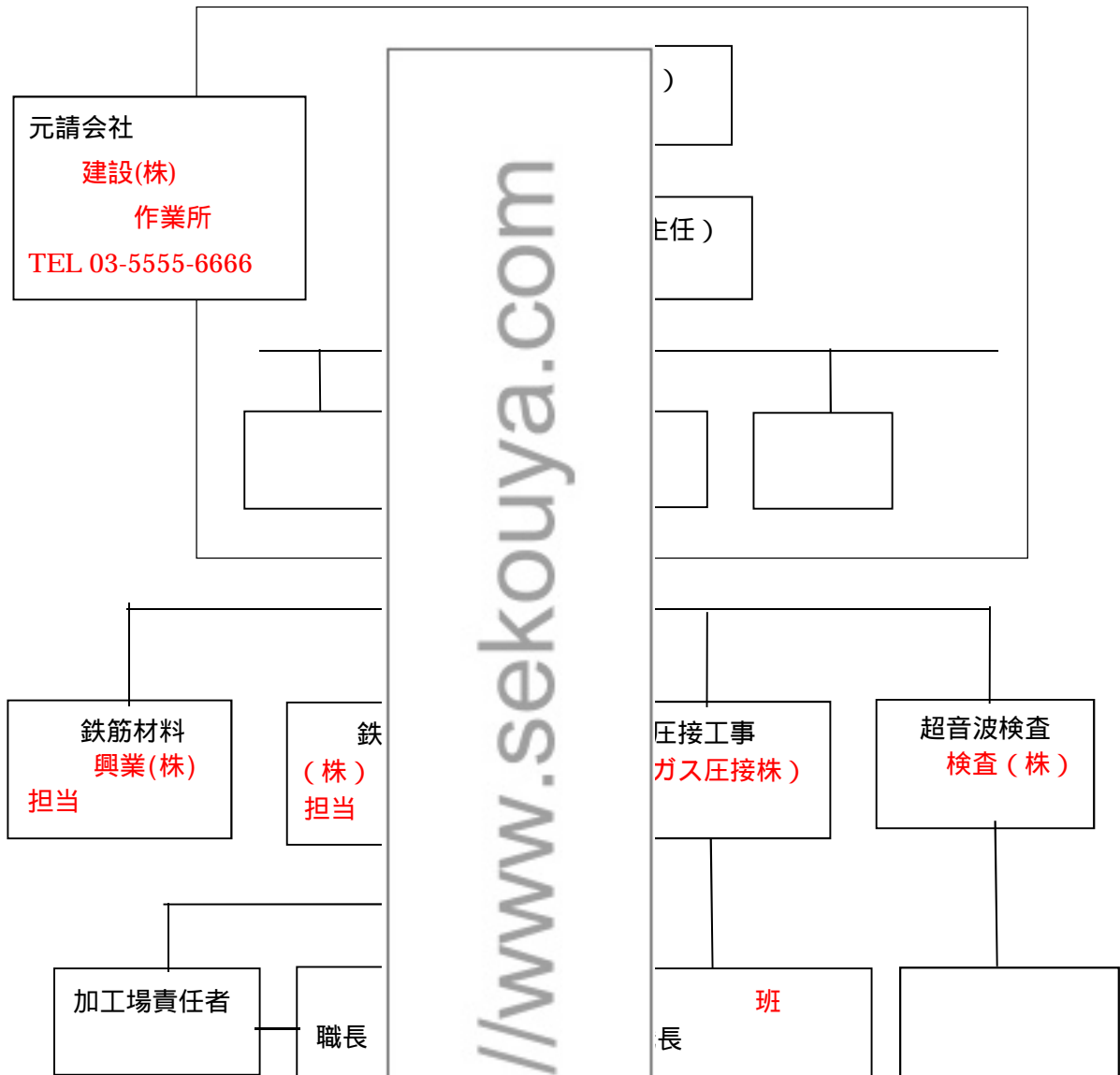
本施工計画書の内容は、施工

に徹底させ、施工品質の確保に努める。

<https://www.sekouya.com>

2) 施工管理体制

a. 組織図



b. 鉄筋工事施工

請負範囲	鉄筋工事	
会社名	株式会社	
所在地	東京都江戸	
電話	03 - 4562 - 0000	
代表者		
担当者	(安全衛生責任者)	

c . 作業資格

鉄筋組立て 班	職長教育		第 0123456 号
	玉掛け技能講習 (1+以上)		第 0123456 号
	"		第 0123456 号
	玉掛け特別		第 0123456 号
	鉄筋技能:		第 0123456 号

d . 鉄筋加工場

名称	株式会社		
所在地	東京都江戸		
電話	03 - 4562		
責任者			
屋内加工場	r	5 台	5.0t × 1 台
屋外加工場	r	3 台	5.0t × 1 台
加工・切断機	自動切断機	2 台	
	自動曲げ機	4 台	
	手動曲げ機		
加工能力	2000 t /		
所要時間	往路 1 日		

e . 鉄筋工事品質管理組織

職 種		担当者名
監理技術者		
鉄筋工事担当		
鉄筋加工	(株)	長
鉄筋現場組立		
圧接	圧接(株)	職長
特殊継手	工業(株)	職長
第三者検査機関	検査(株)	担当課長

3) 工事概要

a . 工程

鉄筋工事工期 平成 28 年 9 月 6 日 ~ 平成 29 年 2 月 20 日

		月		
PH	6t			
5 階	60t			
4 階	70t			
3 階	72t			
2 階	72t			
1 階	74t			
土間	10t			
基礎	80t			
材料発注	—			

		月	月						

https://www.sekouya.com

b . 施工数量

種 類		備 考	
SD295A	D10		
SD295A	D13		
SD345	D13		
SD345	D16		
SD345	D22		
SD345	D25		
高強度剪断筋		7.00 t	1,275N/mm2 10.7
圧接	D19+D19	190 箇所	
圧接	D22+D22	1 箇所	
圧接	D25+D25	1,590 箇所	

2. 要求品質・設計仕様

1) 鉄筋材料 (印は該当を示す)

JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) 規格品とし、全使用材のミルシート (規格証明書) を
 監理者に提出する。

使用箇所		SD295
杭	主筋	
	帯筋	
耐圧版		D13
基礎梁	主筋	
	あばら筋	D10・1
柱	主筋	
	帯筋	
梁	主筋	
	あばら筋	D10・1
床スラブ	主筋	D10・1
	開口補強	D13
壁	主筋	D10
	開口補強	
土間		

筋	継手		
	重ね	ガス圧接	その他
	○		
	○		
	○	○	
	○		
		○	
7	○		
	D16	D19・25	
	○		
	○		
	○		

2) 鉄筋のかぶり厚さ

土に接しない部分	層	
	目	
	木	
	而	
	抄	
土に接する部分	木	
	木	
	基礎・擁壁	

	かぶり厚さ (mm)	許容限界 (mm)
層内	30	± 5
層外	40	± 5
層内	40	± 10
層外	50	± 10
	50	± 10
	100	- 0
壁	50	± 10
	70	± 10

https://www.sekouya.com

3. 施工

1) 使用材料

a. 異径鉄筋

規格	種類	径	製造所	数量
JIS G3112	SD-295A		(株)	00.0t
				00.0t
	SD-345		工場	00.0t
				00.0t

b. 溶接金網

規格	種
JIS G3551	6.0mm 2m

製造所	数量
(株)	000.0 m ²

c. スパースー

使用部位	
基礎・梁	コンク
壁・柱・梁	プラス
スラブ	鋼製柱

形状	備考
コロ型	産業(株)
	工業(株)
ナツ型	産業(株)
型	(株) 製作所

d. 梁貫通孔補強筋

リンブレン D 型

	産業(株)
--	-------

2) 材料保管場所及び保管方法

a. 保管場所

別紙添付

基本的に搬入した材料は直
物に関しては別紙に記載さ

るため保管はしないが、保管が必要な

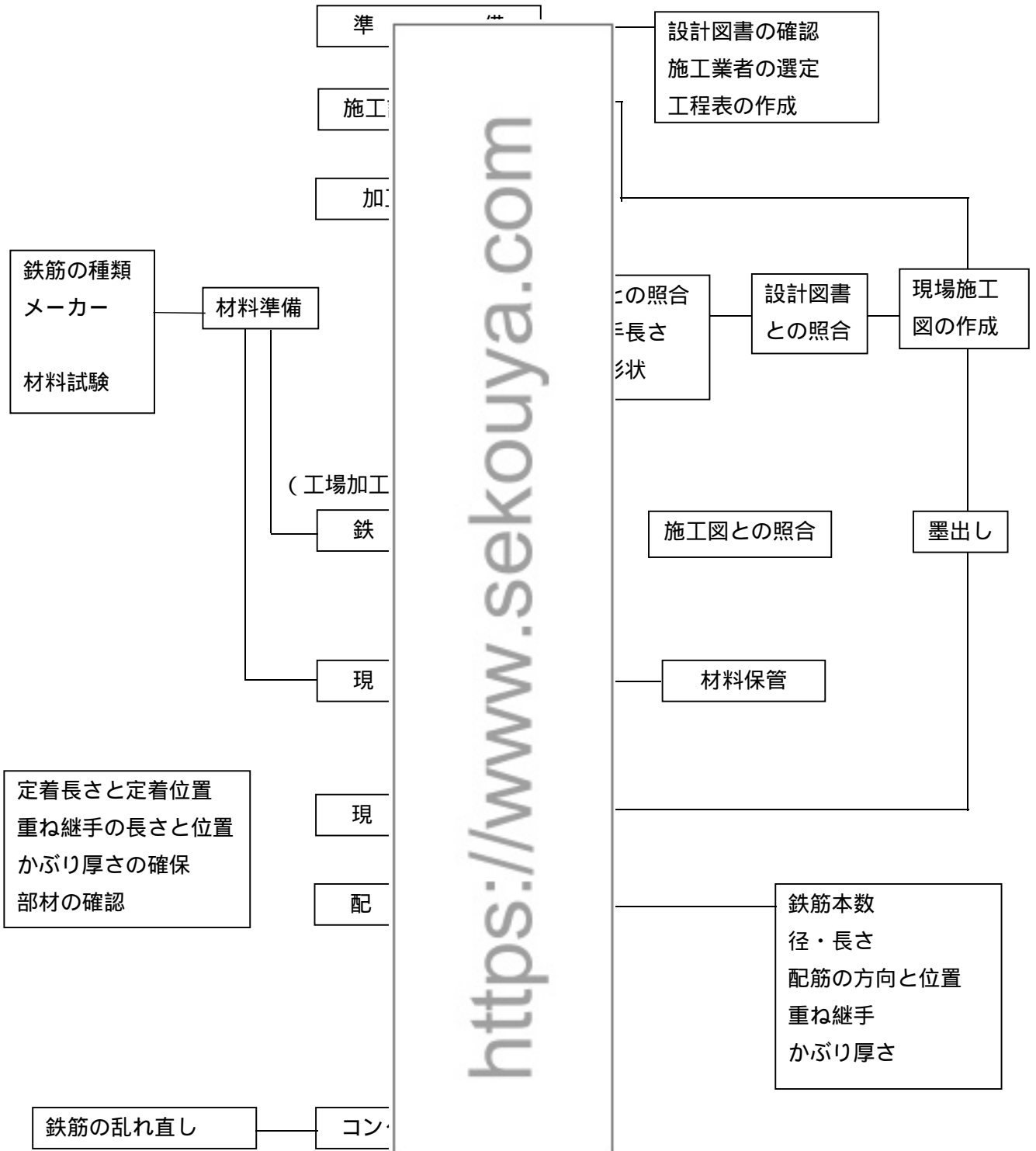
b. 保管方法

台木の上に識別可能なように札を付けて種類別に整理して置き、他の材料との混同を避ける。

https://www.sekouya.com

3) 鉄筋工事施工フロー

本工事における鉄筋工事の作業の流れは以下の通りである



4) 施工要領

a. 準備作業

関連する工事業者と施工打合せを行い、作業手順・方法を決定する。

安全通路・昇降設備・仮設

b. 鉄筋加工

鉄筋の加工は、工場にて行

鉄筋の切断は、ジャーク

継ぎ手及びかぶり厚さの和

定着長さ及びフックの

定着不足の内容十分に留

に加工帳を作成し、加工を行う。

ス切断はしない。

質・設計仕様の表による。

しくは標準仕様書において確認し

c. 組立順序

組立順序は下記の通りとし、

なお、施工時において工区分

と協議の上施工する。

的に進めるものとする。

の必要がある場合は監督職員、関連職種

(1) 基礎

ベース配筋 柱配筋

梁配筋 差し筋等

(2) 上部躯体

柱配筋 壁配筋

筋 差し筋等

d. 関連業者との取合

他業者と関連する場合は躯体

また、別途設備業者等施工

施工する。

合せを行い、躯体図に反映させる。

場合は取合部分の工程を打ち合わせし、

5) 組立て

a. 結束線

鉄筋の結束は、21# (0.85

結束線は、雨に濡れない。

使用する。

結束線の端部は、かぶり厚を確保するために内側へ折り曲げる。

泉を使用する。

筋径に合わせ適した長さの物を選定し、

b. スペーサー

スペーサーは、転倒及び作業荷重に耐えられる材料とし、かぶり厚さに応じて材質・形状・

サイズを選定し、転倒・移動・座屈及び壊れの生じない物とする。

<https://www.sekouya.com>

床版・基礎・梁及び雨掛かりとなる部分には、原則として合成樹脂製のスペーサーを用いる。但し、基礎及び1階の床においては、水に濡れても強度の低下がなくコンクリートの打設まで十分にその形を保持出来ると判断された場合は、この限りではない。

又、杭基礎等に於いて、スペーサーの寸法が60以上となる場合は、加工鉄筋によりスペーサーの代用とする（スペーサーを重ねて使用しない）。

打ち放し仕上げとなる箇所
 広範囲にわたる床版の配筋
 通行等による、配筋の乱れ
 断熱材の打ち込み箇所にて
 いる。

梁下部の型枠セパレーター
 に対しスペーサーを設置する
 コンクリートの増し打ち部
 分のかぶり厚さを確保する
 スペーサーの間隔は、下表

別表 スペーサーの間隔

部 位		
スラブ	上筋	連続 他
	下筋	1.2m
壁		上部
梁		2m
柱		上部

c . 梁貫通孔の補強

別紙添付の「**リンプレンド型**
150mm未満のものは補強を

d . 鉄筋の納まり

補強斜筋の配筋方法は、原
 則とする。床壁等に於いて密に
 壁縦筋の梁内定着におい
 と協議し、決定する。

継ぎ手位置は、設計図書・仕様書の通りを原則とするが、圧接の共試体抜き取りに於いて、再圧接箇所をずらした場合は、継ぎ手位置が、好ましい位置を外れる場合があるため、事前に監理者と協議を行い、指示を受けることとする。

コンクリート製のスペーサーは用いない。
 製の連続型スペーサーを用い、作業員の
 する。

は、めりこみを防止するプレートを用

梁配筋を行う前に全てのセパレーターに

寸法分大きなスペーサーを利用し構造部

は間隔
厚
合は2段とする)

、なお、孔の径が梁成の1/10以下かつ、

に配筋し、鉄筋相互のアキ寸法を確保す
 行する。

い位置に納まらない場合の処置は監理者

https://www.sekouya.com

e . 鉄筋の保護

- (1) 床板配筋の乱れを防止するため、配筋後足場板を配置し、直接配筋の上を歩かないようにする。
- (2) コンクリート打設時において、スラブ配筋の乱れが発生した場合は直ちに修正できるように、鉄筋工を配置する。また、コンクリート輸送管が直接スラブ配筋に接しないよう、必要に応じて配管台を設置する。

6) 検査

a . 自主検査

別紙自主検査表に基づいて目視検査を行う。

b . 配筋検査

鉄筋の加工・組立完了後、スラブ配筋の位置を確認を行い、不備があれば手直しを行う。

打設時、設計図書に基き各部材毎に自主検査と目視検査を受ける。

5) 記録写真

下記について撮影し記録する。

材料搬入状況
ロールマーク確認状況
鉄筋加工の確認
各部材の配筋確認
各種補強筋
スペーサーの取付け状況
被り厚

<https://www.sekouya.com>

4. 安全衛生管理策

労働安全衛生法、同規則及び当作業所安全衛生協議会の定めを守り、災害防止に努める。

1) 墜落事故の防止

- ・足場の確認及び適正使用
- ・保護具の徹底使用（ヘルメット、

2) 電動工具での事故防止

- ・始業前点検
- ・安全装置の確認
- ・感電、漏電事故の防止（ア-

3) 安全活動及び教育

- ・作業開始前に職長を中心とした安全活動（作業手順、方法、合図、5S等）
- ・体操、朝礼、KYミーティング
- ・高齢者、年少者の作業内容の制限
- ・経験の浅い作業員への指導
- ・他職種との密な連絡

4) 工程別安全チェックポイント

a. 加工時

- ・加工機ベルトカバー取付
- ・保護具（手袋等）
- ・機械の取り扱いや、周囲

b. 運搬時

- ・日常点検の実施
- ・交通規則を厳守
- ・過積載の禁止
- ・一般市民、一般車を優先

c. 荷降ろし、荷上時

- ・玉掛は有資格者で行う
- ・周囲の確認、合図の徹底
- ・一本吊りの禁止
- ・吊り具の点検

<https://www.sekouya.com>

c . 組立時

- ・ 高所作業は安全帯を使用する
- ・ 脚立の適正使用
- ・ 飛来、落下の対策
- ・ 作業通路の確保及び整理
- ・ 転等防止（柱・壁・梁）

<https://www.sekouya.com>

5 . 添付資料一覧

1) 鉄筋ミルシート (製品検査証明書)

2) 梁貫通補強筋 (既製品) カタロ

3) 鉄筋加工場概要書

4) スペースー関係資料

5) 資格者証等写し

<https://www.sekouya.com>